

明政会

行政視察報告書

◇富山市

【セルフ&スマートモデル街区の整備について】

- 平成 30 年 11 月 12 日（月） 14:30~16:00
- 視察場所：豊田公民館
- 説明者：環境部 環境政策課 竹田様

【視察目的】

公共交通沿線の低未利用地域における、環境に優しく、安全・安心で快適な正確環境の整備の仕方や、省エネルギーに配慮したまちづくりに関してモデルケースの先進的な事例を視察してまいりました。

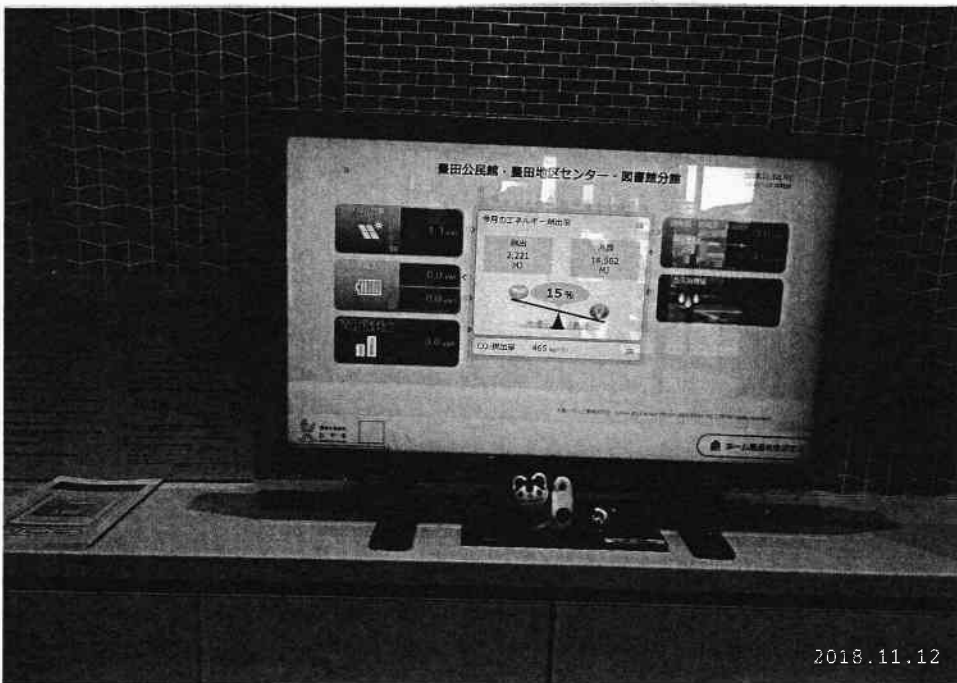
【視察内容】

持続可能なコンパクトなまちづくりを目指し、モデルケースとして作成したモデル街区である豊田地区現地を視察いたしました。

【質疑応答】

- Q. 一般価格より高いが、入居率はどうか。
- A. やや高めではあるが、順調に応募があり現在、ほとんどが売却済になっている。
- Q. 今後の富山市のまちづくりの方向は。
- A. コンパクトシティ戦略による持続可能な付加価値創造都市の実現を旗印に、進めていく。

富山県富山市



明政会

行政視察報告書

◇七尾市

【能登食祭市場の取り組みについて】

- 平成 30 年 11 月 13 日（火） 9:30~11:00
- 能登食彩市場モントレホール
- ご挨拶：七尾市議会 荒川一義議長
ご説明：中村芳紀総務管理部長 伊川敬一郎営業課長

【視察目的】

「道の駅」をどのように運営・営業をしているのかを勉強しに伺いました。土浦には「道の駅」はなく、今後の土浦の活性化のため「道の駅」が有効とされたときのケーススタディとして視察してきました。

【視察内容】

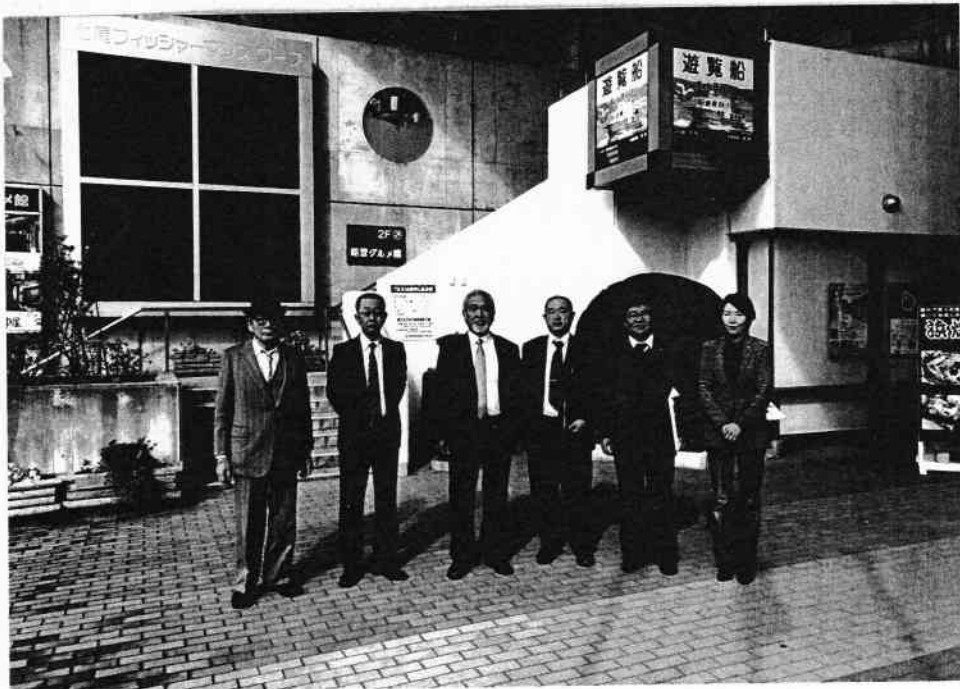
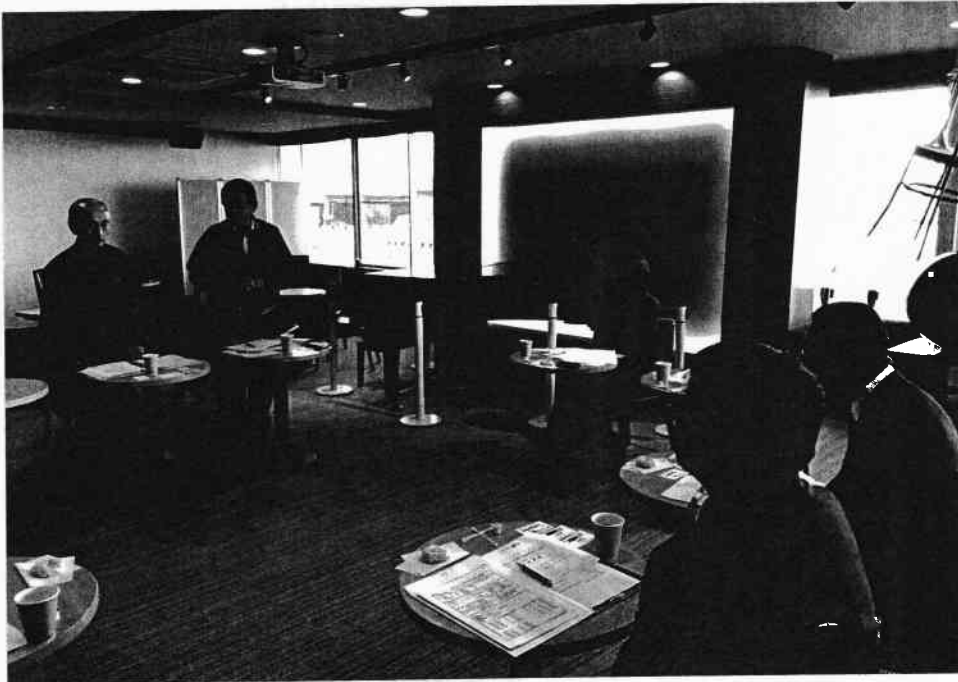
現地でご説明を受けました。

元々の場所は、漁船の荷揚げ場やフェリー発着場であったとのこと。スタート時の経費や、運営方法、家賃、原価など、「道の駅」の設立・運営に関する詳細を伺ってきました。

【質疑応答】

- Q. こちらは運営が成功しているが、何が一番の成功理由か。
- A. 開業依頼、退去したお店は 1 軒もない。きめ細やかな対応が重要だと思う。
- Q. 営業で一番大切なことは何か。
- A. イベントはこまめに開催した方が良い。新聞やチラシなどを活用している。マスコミを上手に使うことも有効。

石川県七尾市



明政会

行政視察報告書

◇輪島市

【生涯活躍のまちプロジェクトについて】

- 平成 30 年 11 月 14 日（水） 9:30~11:00
- 輪島市役所 輪島カブール
- ご挨拶：藤田博規議長
- ご説明：神産業部長 永原産業課林政係長

【視察目的】

この視察内容も少子高齢化、空き家問題についての施策です。
市街地の空き家を活用した、交流施設やサービス付高齢者住宅などの施策を推進している輪島市の取り組みを勉強してきました。

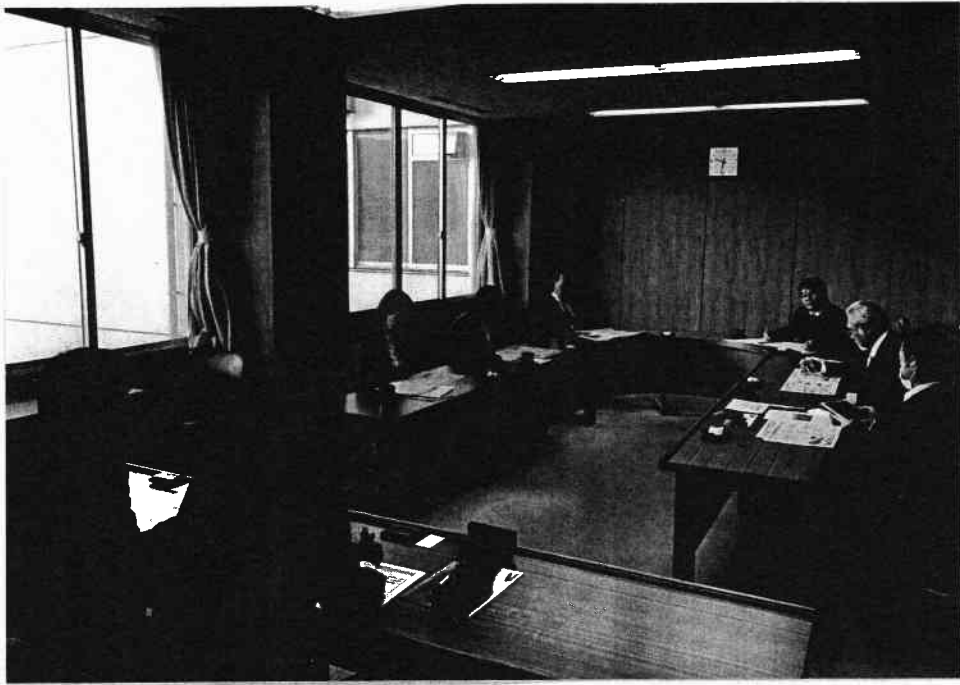
【視察内容】

運営方法が、他の自治体に多く見られる行政運営とは異なり、社会福祉法人佛子園が主体となり、行政は側面的な動きしかしていない。色々な運営方法の有効性を勉強してきました。

【質疑応答】

- Q. このような運営を選択した理由は何か。
- A. 白山市に佛子園という社会福祉法人があり、まちづくりに取り組んでいて、視察に行ったのがきっかけ。
- Q. 資金はどのように得たのか。
- A. まず国の補助金 100%を利用し、その後は国交省メニューの空き家対策費などを利用した。市単独での支援はしていない。
- Q. 自治体関与のボリュームが大きいと運営は難しいか。
- A. 難しい。

石川県輪島市



行政視察報告書

明政会 寺内 充

◆富山市のセルフ&スマートモデル街区の整備について

富山市でも人口減少を止める為、環境未来都市を目指して、中心市街地の公共交通沿線に居住人口推進地区を作って、コンパクトなまちづくりで環境モデル都市の建設を目指している。高齢者から支持されている施策である。

◆七尾市の能登食祭市場の取り組みについて

民間出身の人達が海から近いところにある空き地に立ち上げた道の駅で、日本一の宿泊で有名な和倉温泉の加賀屋さんの応援で運営している施設です。年間八十万人の人達が訪れているそうです。全国の約七割くらいの道の駅は、赤字経営なのに一度も赤字は無く、経営は順調だそうです。

土浦の公設卸売市場も将来は道の駅にする時に見習っていきたいと思います。

◆輪島市の生涯活躍のまちプロジェクトについて

輪島市の中心市街地は、約二千件くらい空き店舗があり、施策に苦勞していた時、社会福祉法人の佛子園が行っている高齢者事業に着目して、町の中心部へのグループホームなど高齢者や身障者などの施設を誘致したところ、まだ働く意力がある高齢者の力になっている。市街からの移住者も増えつつあり人口減少に歯止めがかかっているのと町の活性化に寄与したとの事です。

行政視察報告書

明政会 柳澤明

富山市 富山市セーフ&スマートモデル街区整備事業

公共交通を軸にしたコンパクトシティ政策で注目を浴びている富山市だが、同時に環境政策でも一歩先を進んでいる同市が打ち出した「環境未来都市計画」中の、セーフ&スマートモデル街区整備事業を拝見させていただいた。

低炭素、省エネに配慮した街づくり・・・どこにもでもありそうだが、これほど徹底して環境を考慮した街づくりというものは、なかなか他所では見られない。というのが第一印象である。

小学校跡地を民間に払い下げ、公民連携で 21 区画の分譲住宅を開発したもののだが、富山市の趣旨がそっくり反映された、いかにも先進的な住宅街が出来上がっている。全戸に太陽光発電や家庭用燃料電池、リチウムイオン蓄電池が設置され、電線の地中化もあってか、整然と立ち並ぶ家並みはどこか無機的な印象が拭えない。しかし、規格化された建売住宅というのは一般的にはこんなものであろう。

この住宅を購入された方々は、環境問題に関心の高い人なのだろうが、問題はその価格である。60 坪の敷地に 40 坪の 2 階建てで 6,000 万円。決して安くはないこの住宅が半数以上売れているという事だが、実に人の価値観というのは多様なものである。今後、宅地開発を検討する際には大いに参考になる事例である。

七尾市 能登食祭市場の取組について（道の駅）

土浦市に「道の駅」を提唱して 10 年ほど経つだろうか。当時は全国で 720 ヶ所程度だったが、現在では 1,145 ヶ所にまで増えている。その間、あちこちの道の駅を見学させていただき、ますますその必要性を感じている。

能登食祭市場は平成 3 年、七尾マリンシティ構想による「七尾フィッシャーマンズワーフ」としてオープンし、街おこしの起爆剤として活性化に寄与してきたという。当時は「道の駅」が実験的に始まった時期でもあり、後の優位性はまだ確立されておらず、他の施設と同様に、ここも地域の特性を生かしたいいわゆる「産直」としての営業を続けてきた。

開場後 17 年目には延べ 1,500 万人の来館者を数え、営業的にも安定してはいたが、更なる発展を目指して国交省に申請、平成 21 年に「道の駅」に登録されたものである。

道の駅の収支は黒字経営が3割で、半数以上が赤字経営であるという。(だから土浦市ではやらないのだとか・・・)

その成立の大きな要因は、隣接道路の交通量に占めるところが大きく、一日あたりの交通量15,000台がK点だそうだ。同時に、店舗で扱う商品や食事の品質、周囲の環境などいろいろあるが、近年は道の駅そのものを目的地とする観光客が増えているようで、施設の規模や充実度が大きな要因であろう。

基本的には、海を抱えて海産物を中心とした施設はほぼ成功しているのだが、稀に閑古鳥が鳴くような所もいくつか見てきた。その原因はやはり施設の規模によるところが大きいように思われる。

私が提唱している公設市場の隣接道路・東大通りの交通量は1日25,000台と、立地的に申し分は無い。また市場では魚、肉、野菜の生鮮3品を取り扱っているという点も、道の駅として客を呼び込むには十分な素質を持っている。

私の一般質問の中で、「民営化したから市にはその権限がない、民のことは民で」という市長答弁があったが、道の駅の認定要因の最大のもはその設立母体である。

経営はともかく、自治体が設立の主体にならなければ国交省は認めないということである。

これからも気長にこの事業を提案していこうと思っているが、現在の執行部では多分無理であろうと思う。

輪島市 生涯活躍のまちの取組

役所内での説明を聞いている限りではこの事業の特長が見えなかったが、現場を見学させていただき、なるほどと感心させられた。

ただ残念なことは、一番気になっている資金計画がよく見えないことで・・・これは佛子園輪島という社福が事業者であり、致し方のないことかもしれないが・・・そのノウハウが見えれば土浦市においても、できそうな事業であると感じた。

今後ますます需要の増える福祉関係のうち、少しの援助があれば自立できる層のリハビリと、地域住民を取り込んだこの取り組みは、今後全国のモデルとなるだろう。

佛子園では、このほかにもいくつかの施設を運営しているようなので、ぜひ見学させていただきたいと思っている。

行政視察報告書

明政会 折本 明

◆富山市 富山市セーフ&環境スマートモデル街区整備事業

富山市への視察は今回で3度となりますが、地方都市での公共交通網整備と街づくりに関しては、勉強させられる事案が数多くあります。

路面電車と新交通システムライトレールの共用施策が最初の視察でしたが、その後も富山市では、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトな街づくりの実現を目指してさまざまな政策を打ち出しておりました。

今回の視察では公共交通沿線の未利用地において、環境に優しく安心して安全な生活ができるモデル街区を整備して、公共交通沿線での利便性の高い暮らしや環境等に配慮した質の高い住宅供給を図っておりました。

人口減少、超高齢化社会で行政コストが増大するなか、中心市街地の活性化や公共交通沿線での都市機能の集積が大きな課題であると感じた次第です。

◆七尾市 能登食祭市場の取組みについて

能登食祭市場は1991年9月に、港湾都市七尾の再生を目指して始まり《能登の人と味と祭りの発信基地》をコンセプトに、総事業費15億5千万円を投じてオープンしました。

運営会社の(株)香島津は地元行政、経済団体、金融機関、民間企業などが出資した第3セクターであります。全国の自治体でも3セクでの事業は数多くありますが、成功した事例はあまり無いとの認識が私にはありました。

能登食祭市場では、身の丈に合った事業規模だったことや、地元資本のテナント構成により、地域との一体感が保たれたことと、直営部門を設けたことで商品開発力が磨かれ、安定した収益を確保できたことが成功につながったものと考えられます。

◆ 輪島市 生涯活躍のまちプロジェクトについて

このプロジェクトは、輪島市中心部に点在する空き家や空き地を利用し、子どもから高齢者、障害や疾病の有無国籍などに関わらず、地域に暮らすすべての人たちの共生拠点として始動しました。

平成 26 年度に内閣府まち・ひと・しごと創生本部が全国に先駆け《生涯活躍のまち》先行 7 モデルの一つとして採択した事業となります。

輪島市の街中再生事業計画と佛子園（社会福祉法人）、JOCA（公益社団法人青年海外協力協会）との連携により、多方面からの取組みはまさに（ごちゃまぜ）と称して過言ではないと感じました。古い町並みの中に、人が行き交い集う情景は、住んでみたいと思わせるものがありました。

行政視察報告書

明政会 吉田 博史

◆富山市 セーフ&環境スマートモデル街区整備事業

富山市では地方都市の特性である、人口減少と超高齢化の進行、市街地の外延的拡大や過度な自動車依存と公共交通の衰退が最重要課題と位置づけており、目指す都市像としてコンパクトなまちづくりを実現すべく、鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市機能を集積することにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを実現しようとしておりました。

持続可能な都市を創出することにより、誰もが暮らしたい活力のある町の実現が今後の地方都市が描く未来都市構想ではないかと感じました。

◆七尾市 能登食祭市場の取組みについて

能登食祭市場は、数年前に行政視察の途中に立ち寄った施設でした。当時、施設には観光バスや、マイカー旅行客で大変賑わっていた記憶がありました。

運営会社の中村管理部長からの説明で、オープンから30年近くなる今でも客足が減少することなく、常に新しい企画イベントを繰り返し、リニューアルも行い努力しているとのことでした。

オープン当初からのテナントが今も営業を続けており、撤退した店がないとの説明には驚きを感じました。

北陸新幹線金沢開業を能登自動車道、七尾氷見道路の開通をさらなる好機ととらえ、さらに魅力をアップして交流人口の拡大を図っているとのことでした。経営戦略の中で当初より、和倉温泉加賀屋ホテルの経営ノウハウが運営に活かされているとのこと、官民一体の経営が成功を招いているというめずらしい事例だと感じた次第でした。

◆ 輪島市 生涯活躍のまちプロジェクトについて

このプロジェクトは、特徴として空き家空き地などの既存ストックの活用、国際的な感性を持つ青年海外協力協会の人材活用、住民自治機能の形成と移住者受入意識の醸成があげられ、住民の活躍の場を創出するとともに、社会福祉法人の協力により、高齢者向けの住宅の整備も行っています。

行政独自の発想では限界があり、プロジェクト全体を見てもやる気を行動力は民間専門分野の影響が大いにあると感じました。

多岐にわたる各施設や活動には派手さはありませんが、一步一步前進している様子などは伝わってきます。

人口減少、超高齢化、空き家問題をすべて取り込んだ施策であり、民間の発想とノウハウは今後ますます大きく影響していくと感じた次第です。

行政視察報告書

明政会 今野 貴子

◆富山市 セルフ&スマートモデル街区の整備について

富山市のまちづくりは全国でも群を抜いて進んでいる。今回の視察内容も環境問題までも視野に入れた、これからのまちづくりの指針となるものでした。

人口減少と超高齢化、過度な自動車依存と公共交通の衰退など、どの自治体でも直面している問題は同じであるが、取り組みのコンセプトは未来志向で、斬新なものでした。

環境問題にも着目し、車に頼りすぎないCO2削減計画の推進。販売住宅には太陽光発電パネルを標準装備するなど、未来に向けての視点も重要視しています。

市長の卓越した手腕で、富山市はまちづくりの他の面でも勉強することが沢山あり、土浦でもその一端を取り入れられるようにしなければならないと、強く感じた視察でした。

◆七尾市 能登食祭市場の取り組みについて

「道の駅」がない土浦で、「道の駅」が活性化につながるための取り組みについて勉強してきました。

開業当時、来館予想は40万人でしたが、その2倍である80万人と聞き、海に面した立地が大きく寄与しているのだと思いましたが、月に一度はイベントを開催する、マスコミを利用する、など営業の努力の成果でもあったと感じました。

和倉温泉の加賀屋旅館の経営ノウハウを提供してもらっているとのこと。これはかなり有益なことなのだと思います。

土浦でも「道の駅」を前向きに推進して行くためには、土浦独自の運営方法を模索することが必要だと思いました。

◆輪島市 生涯活躍のまちプロジェクトについて

少子高齢化、人口減少、それによる空き家空き地の輪島市の取り組みについて視察をしてきました。

空き家を利用し、高齢者向けの施設を作るという施策内容は、他の自治体でも地域の特色を持って実施されていますが、輪島市では社会福祉法人との連携医で運営しています。実際に見せて頂くと、行政だけで取り組んでいる施設との違いが感じられます。また、形骸化されたものとは違う活気も感じました。元々の家屋の素材である木材を有効に使用しており、リニューアルした部分も清潔感がある木材を使用しており、太陽光を沢山取り入れる設計になっている。これだけで、精神的に気持ちがいい。

施策内容から設計、運営まで、細やかな配慮が大切だと感じた視察でした。